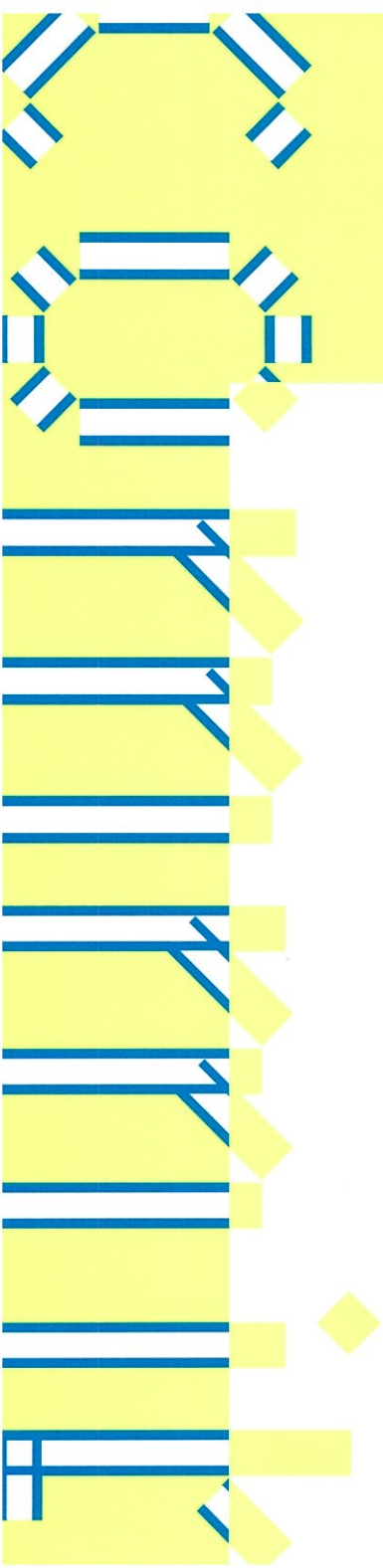


TERATOTERA

2013 の作り方



# What's TERAKKO? What's TERAの穴?

TERATOTERAの活動に協力してくれるボランティアスタッフを「TERAKKO (テラッコ)」と呼んでいます。年齢も職業も非常に幅広く、さまざまな背景を持った人たちが一緒になって、TERATOTERAひとつひとつのイベントを支えています。TERAKKOはアートを媒介とし、ひとりひとりが率先して地域に働きかけ、人材や資源を繋いでいく役割を担っているのです。

さらにTERAKKOの中でも、「アートプロジェクトを運営するために必要な実務をよりいっそう経験し、いつか自分の力で何かを起こしたい」という人を育成するために今年度誕生したのが「TERAの穴」養成所。いわゆるTERATOTERAの運営事務局メンバーです。TERAの穴メンバーは3ヶ月ごと春・夏・秋・冬の4期に分けて3~4名が担当し、ひとつのイベントの準備から残務までに必要な細かい業務を行いました。

他に仕事を持ちながらも休みを利用して常に奮闘してくれる「TERAKKO」「TERAの穴」の活躍がTERATOTERAの非常に大きな柱であり、TERATOTERAをつくっています。(小澤恭子)

## TERATOTERA 2013 の作り方

もくじ

- ii..... **What's TERAKKO? What's TERAの穴?** | 小澤恭子
- iii..... **TERATOTERAの作り方、お教えします!**
- iv..... 途中下車の旅@三鷹  
**私を委ねる場所** | 滝本亜魅子
- v..... 途中下車の旅@吉祥寺  
**TERATOTERA SOUND FES. 公園のリズム 公園のメロディー** | 遠山尚江
- vi..... TERATOTERA祭り@高円寺  
**商店街サミット** | 脇屋佐起子
- vii..... TERATOTERA祭り@西荻窪  
**TEMPO de ART 2013** | 吉田絵美
- x..... 企画者座談会  
**イベント企画は手作りの魅力** | 滝本亜魅子/遠山尚江/脇屋佐起子/高村瑞世/宮久実那
- xii..... TERAの穴座談会  
**いろんな思いを、いろんなカタチに。** | 高村瑞世/吉田絵美/千葉佐奈子/森 聡史
- xiv..... スタッフレポート  
**広報** | 森 聡史
- xvi..... TERAKKOたちのAfterwords  
**TERATOTERAでつかんだ私の大事なもの!**



TERATOTERAのいろいろなアートプロジェクトの企画制作にあたっているのがTERAKKOたち。  
 TERAKKOはそれぞれのイベントや展示をどのように運営しているのでしょうか。「TERATOTERA 2013  
 の作り方」では、「TERATOTERAの企画がどのように作られるのか、そこでTERAKKOたちがどんな活動  
 をしているのかに焦点を当ててみました。これであなたもイベントの見え方が変わってくるかも?!



# TERATOTERAの作り方、 お教えします!!

# 私を委ねる場所

発端は2013年度のTERATOTERAのメインテーマ“commit”でした。この言葉の意味は、「委ねる、繋がりをもつ」ということ。なぜこの言葉が選ばれたのでしょうか？

TERATOTERAの運営には、さまざまな職業、年代の人々からなる「TERAKKO」こと、大勢のボランティアスタッフが関わっています。2009年から何年も継続的に活動を行うTERAKKOたちが増える中、ボランティアの活動には“commit”することが期待されてもいます。

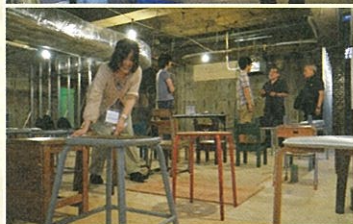
しかし、そもそもなぜ私たちはこのような活動を進んで行おうとするのでしょうか。また、私たちの活動のもつ意味とは？ トークイベント「私を委ねる場所」の企画の内側には、私たちにとっても大切なこの問いが含まれていたのです。

現実的な面では、パネリスト選びに思いのほか時間がかかりました。最初の会議で地域や共同体という繋がりを軸に精力的に活動している作家さんの名前がたくさん挙がりましたが、遠

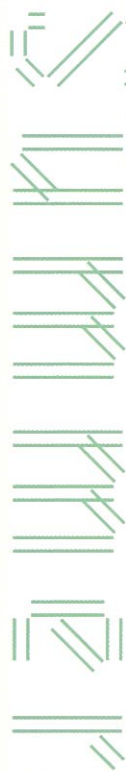


方であったり日程があわなかったり……。しかし、藤さんのお名前が出たとたん、トントントン拍子に3名の方の出演が決まり、その後の展開はもはや記憶にないほど。あつという間にチラシ作成や準備も終えて、当日を迎えました。イベントまでの限られた期間の中でどれだけ準備できるかが勝負と実感しましたが、かつてない顔合わせのパネリスト3名のトークイベントに關われて、非常に充実した時間となりました。

(滝本亜魅力)



# TERATOTERA SOUND=FES. 公園のゴング公園のメモリー



TERAKKOたちが月に一度集まる定例会で、「井の頭公園で8月の夏休み時期にワークショップとライブをやってはどうか」というディレクターからの提案を受けて、この企画は動き出しました。当初8月の開催を予定していましたが、出演交渉が難航したため、日程を9月8日に変更して再度交渉開始。皆から人気の高かったオオルタイチ+ウタモにライブを、個人的に注目していたタップダンスカンパニーTAPPERS RIOTにワークショップを、それぞれ依頼することになりました。

井の頭公園は絶好のシチュエーションですが、住宅街が近く、音が出るイベントの場合は公園事務所や近隣の住宅へのご挨拶が欠かせないので、これは事務局長とTERAKKOたちの大事な仕事になりました。タップのワークショップはTERATOTERAでも初めての試み。私はタップとその歴史に興味を感じて取り組みましたが、まだまだ一般の認知度は低く、

広報には苦労しました。タップがどんなものかを知っていただく工夫が必要だったかもしれません。

当日は不安定な天候にもかかわらず、お越しいただいた大勢のお客さまに、ワークショップもライブも大いに楽しんでいただけようです。特にライブ

は、音楽と環境の取り合わせが互いの魅力を引き立て合って、奇跡のような瞬間が生まれました。TERATOTERAの野外イベントは多くの方の注目をいただいております、今後も継続してこのエリアを象徴するものにしていきます。

(遠山尚江)



# 商店街サミット

気づけば、どこもチェーン店ばかり。そんな平面的な街への様変わり、大きな危機感を感じています。ファストファッションへの傾倒など、街に暮らす人の没個性化もさることながら、個人商店の相次ぐ閉店が生んだ商店街の隙間に、大型資本が入り込んだことも大きな原因のように思います。

2012年に吉祥寺で行われた「まちプロ会議」で松本哉さんが話された「商店街の活性化を成功させると、家賃が上がって困る。ならば少しずつ拠点を移し、商店街もずらしていけばいい」という独創的なアイデア。その深化を求めてテーマを商店街に特化し、ユニークな発想でシャッター街化をくい止めようとしている方々にお集まりいただき、今抱える問題や打開策、ビジョンを共有し、次の活動につなげてもらえればと思っ

て企画したのが、この「商店街サミット」です。松本さんが興味を持たれていた「セルフ祭り」をきっかけに六角橋商店街の存在を知り、アカデミミックな視点からの発言を社会学者の新雅

史さんをお願いするようになりました。

告知を始めると、予約方法を記したSNSの閲覧数は、他のイベントの4倍もの2000件に迫る勢い。予約の時点でキャンセル待ちが出るほどの反響にも、関心の高さが伺われました。当日は、立錫の余地もない会場で熱気あふれるイベントとなりました。後日、イベントレポートを書いて下さる参加者がいたり、意気投合したパネリストたちの交流が今も続いているらしいことは、企画者にとって何よりうれしい収穫となりました。

(脇屋佐起子)



# TEMPO de ART 2013



「TEMPO de ART」は2013年で2回目の開催となりました。その前年に「店舗で作品を展示したら、どのような化学反応が起こるんだろう」というアイデアから、「西荻映像祭-TEMPO de ART-」を開催するのが始まりです。

2012年は、TERAKKOが選定した若手アーティスト8組による映像作品を13軒の店舗で展示しましたが、2013年は、ジャンルを問わない公募制での開催を試みました。このときに一つ条件として、30歳以下という年齢制限を設けました。これは、新しいアーティストに出会いたい、また西荻窪の店舗で展覧会を行うことの可能性を追求したい、という思いがあったためです。今回は2度目の開催だったこともあり、前年から継続して参加いただいた店舗と、新たに開催が決定した店舗、計13軒での開催になりました。何もない状態からさまざまな店舗を渡り歩き、一から交渉した2012年は大変でしたが、

その実績があったからこそ、今回さまざまな店舗にご参加いただいたのだと思います。

2013年の「TEMPO de ART」は、全体的に前年よりも拡張した形になりました。新たに増えた開催店舗には、クリーニング屋や旅専門の本屋、カイロプラクティックなどがあり、昨年にも増してヴァラエティ豊かな構成に。

11月の開催に先立ち、7月に公募のプレゼンテーション会を行いました。公募には26組もの応募があり、2日間に渡って全員に発表してもらいました。選出方法は、互選方式でアーティスト同士が繰り返す投票するというもので、その結果選ばれた10組が、11月に向けて作品制作を開始しました。プレゼンテーション



会では、演劇や楽器を用いたパフォーマンスもあり、参加したアーティスト・TERAKKO共に新鮮な二日間でした。

参加アーティストが決定した後は、TERAKKOがそれぞれ店舗ごとに担当を持ち、店舗とアーティストの間に立って準備を進めていきます。アーティストと一緒に店舗を廻ったり、作品プランを相談したりなど、開催までの期間、濃密なやりとりが店舗、アーティスト、TERAKKOの間で行われました。

1ヶ月の開催期間中には、2回の講評会と鑑賞ツアーを実施しました。講評会のゲストには、1回目に美術館学芸員の方、また第2回にはギャラリストの方2名をゲストにお招きしました。この講評会では、個々の作品講評だけでなく、TEMPO de ART全体についての意見や提案をうかがうことができ、自分たちの企画を客観的に考えるよい機会となりました。

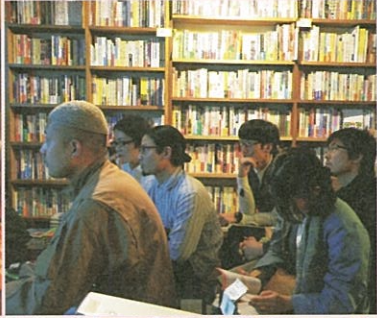
2回の開催を経て、「続けることによる変化」の力を感じています。街の中でアート活動を行うことにとって、「継続」は重要なキーワードなのです。また、TEMPO de ARTは、若手アーティストだけでなく、自分も含めTERAKKOも成長するきっかけとなりました。今後も西荻窪で、TERAKKO、アーティスト

アーティストたちと「私たちにしかできない、私たちの街のアーティスト」の開催を模索し、続けていきたいと思えます。(吉田絵美)



TEMPO de ART 事務局  
右から、高村瑞世、宮久実那、吉田絵美





# イベント企画は手作りの魅力

滝本亜魅子／遠山尚江／脇屋佐起子／高村瑞世／宮久実那 聞き手＝編集部

—— TERATOTERA は去年もいろいろなイベントを開催しましたが、こうした企画はどうやって決めるものなんですか？

**滝本** まず、どんな企画をやるか意見を出し合うところから、みんなで話し合って決めますね。みんながやりたいと思っても、相手の都合でダメになることもありますし。私の場合は、企画を進めていくうちにいつのまにか企画者になっていったという感じです。だから企画者といっても、企画を決める人、じゃなく、どちらかというと、その企画を中心になって進める人、ですね。

**遠山** 私は、2011年のTERATOTERA祭りで熊谷和徳さんのタップダンスを見てからタップにすごく興味がわいて、ずっと勉強してたんです。それで今年、吉祥寺でライブとかワークショップをやるようになっていう話にな

ったときに、絶対タップがやりたくて、企画を激プッシュして、やらせてもらうことになりました。

—— イベントをやることになると、周りの人を巻き込むことになりですね。「TEMPO de ART」の場合、展示をさせてくれたお店の側の反応はどうでしたか？ アートと関係のなさそうなお店も多いし、イベントから直接利益が出たわけではないでしょうが……。

**高村** ふだんお店に来ない人たちが来てくれるきっかけになればラッキーというくらいかもしれませんね。このイベントのおかげでお店が儲かったことはたしかにないんですけど（苦笑）、たぶんそういうこともあまり期待されていない気がします。

**宮久** 応援してもらってるっていう感じかな。去年はあんなことやってたから、今年は何を

もってくるのかなっていうふうに見える方もいますね。

**高村** 西荻って個人経営のお店が多くて、店主は自分のやりたいことをやって生計を立てている方たちなので、やりたいことがある若者に理解があるのかもしれないね。



—— いろいろたいへんなことも多いと思うんですが、場所を決めるのなんかはどうでした？

**脇屋** そうですね、やりたい場所があったらお願いしに行っても、なかなか話がまとまらなかったりというところはありました。場所が決まってるから、狭いところだと、何

をどこに置かかみた  
いなことでお店の人  
とずいぶん頭を悩  
ませたり。それと  
お金の問題はやつ  
ぱり大きいですね。



TERATOTERAは予算があまりないので、  
ライブハウスみたいなところでやろうとする  
と、どうしても合わないんですよ。

**高村** 今年の「TEMPO de ART」では、ま  
ずお店を決めて、そこで何ができるかアーテ  
ィストに考えてもらったんですけど、お店で  
作品を展示するにしても、なじみすぎるとか  
えてって面白くないというか、お客さんに通  
り過ぎられちゃったりするんです。一見あんま  
り合わないところでやる方が、異質感は出て、  
目にはつくみたいですね。

**宮久** お店も個人的なもので、作品が埋没しち  
やう危険性もあったし。その組み合わせとか  
バランスを考えるのは難しかったですね。

**脇屋** 「TEMPO de ART」ではあえて無茶  
ぶりをしたようですが、ある程度キャリアの

ある作家だったら、引き出しもたくさんあ  
ったり開き直ったりできるところ、若い作  
家だと萎縮してしまいかねない。それでは  
いい結果は生まれませんから、そのために  
は私たち企画側が、ものと人と場所につい  
てもっと知る必要があります。それはやる  
たびに思っていますね。

**遠山** 夏のイベントでタップダンスのワーク  
ショップをやったんですけど、開催の3日  
くらい前に、内容の大枠を見せてもらった  
ら、参加者はただ教わって最後にみんな合  
わせて終わり、みたいな受け身のかたちにな  
っていて、あ、マズい、と思ったんです。こ  
ういうワークショップって参加する人も自分  
から何かを作ったりする要素がないとやる意  
味がないじゃないですか。こちらはそれ  
が当然と思っていた  
けれど、でもその  
意思疎通がうまくい  
っていないことがわ  
かって、それはすじ



く勉強になりましたね。そこからもう一度コ  
ンセプトの「commit」に戻って話し合いをし  
たんですけど、結果的には先方もこちらの話  
をよく理解してくださって、イベントもうま  
くいったし、終わってからも「あのとき変え  
ておいて本当によかった、僕たちもワークシ  
ョップがどういふものなのか、もっと勉強し  
ていきたい」というメールまでいただいて。

**一同** おおー！

**遠山** これまでは作り手側の視線が主だった  
んですけど、お客さま目線というのも考えなき  
やいけないんだなと痛感しました。その方が作  
品やパフォーマンスも結局よくなるのかも。

**宮久** だから、もう自分たちでも、ちょっと  
手伝うというのとは  
違うレベルの関わり  
になってる気はしま  
すね。手探りで反省  
点を積み重ねながら、  
私たちも成長……で  
きてるといいなあ、  
と思います(笑)。一



# いろいろな思いを、いろいろなカタチに。

高村瑞世／吉田絵美／千葉佐奈子／森聡史 聞き手＝編集部

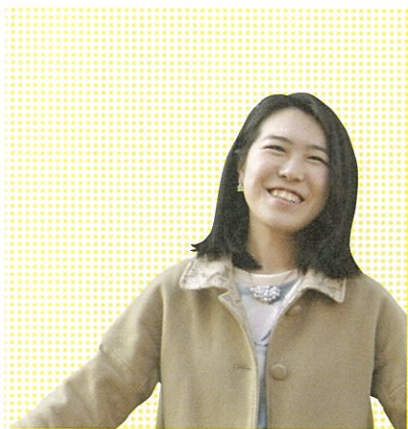
— みなさんはどうしてTERAKKOになられたんですか。アートの興味があって？

あるいはとりあえず何かやってみたくて？

**千葉** 私は両方ですね。もともとアートにも興味があったんですけど、今住んでるところに長くいるわりには近所に全く知り合いもいなかったもので、近くにどんな人が住んでいるのかなとか、このへんがどんなところなのかなんて思ったのがきっかけです。

**森** 僕も美術に興味があったんですけど、みんなでわいわいやりながら何か作るっていうのが好きだったんですよ。それと、それで友達ができたらいいなと思って。

**吉田** 私は大学でアートの勉強をしていたんですけど、ずっとやっていこうとは当時はあまり考えていませんでした。卒業論文の時期になって、アートプロジェクトの研究をしょ



うと思ってTERAKKOになったら、こんないろいろなことをやることになっちゃって（笑）。最初はとにかく教えられたままにやってたんですけど、そのうちアーティストと話してあれこれ決めたりして、「あ、こんなことまでやっていいんだ」みたいな驚きはありましたね。今は美大の大学院でアートマネジメントの勉

強をしているので、TERATOTERAの影響は大きいです。

— TERAの穴って、企画者とはどういう棲み分けになっているんですか？

**森** 企画者は、こんなコンセプトでこんな企画をやりたいとか、アーティストを呼んでこんなことをやってもらいたいと相談したりという、キュレーターみたいなものですね。その仕事にもふたつあって、その場をディレクションしていく仕事と、それを実現していくための実務の部分。その実務の部分をサポートするために、TERAの穴がいるわけです。具体的にいうと、ボランティアの手配だとかスケジュールやタイムテーブルを作ったり、必要なものを調達したり。もちろんそこまできっちり分担が分かれているわけではないですが、企画者の手が回らない部分やスケ・モ

レをフォローするかたちで企画を成立させるためのチームです。

**高村** ボランティアのローテーションを考えると、イベントが入るとけっこう複雑だったり、当日になってみないとわからない部分があったり、なかなかたいへんですよね。

**千葉** いつも当日になって来られないという人が出てくるので、どこかにしわ寄せが来るのですが、逆に当日心配になってパツと来てくれる人もいたりするので、そこは心強いですね。TERAKKOはもう何年か続けて参加している人が多く、こちらから指示を出さなくても勝手に動いてくれますから。初めてや



る人が入っても、経験のある人とベアを組めば、わりとうまくできると思います。

—— クレーム処理なんかもされるんですか？

**森** 井の頭公園でのイベントのときには、警察から「勝手にやっちゃダメだ」とかいわれましてけど、もちろん許可をとってあったから大丈夫。そういういろんなことへの対処法の蓄積はできたと思います(笑)。

**高村** 「TEMPO de ART」の開催自体がいやだっという方のところは何度かご説明に伺ったことはありますね。そういうときには事務局が行くよりも、企画を立てた人間が継続して行く方が説得力も出るんですよ。

—— TERATOTERAの活動が地域に浸透してきた手応えはありますか？

**千葉** 前年度のイベントが話題になった所では、「今年は何やるの？」なんて聞かれたりしますよ(笑)。毎年少しずつ内容を変えながらやってきたことで、そのつど新しい層に届いている気はしますね。

**吉田** TERAKKOはいろんなバックグラウ

ンドを持った人たちが集まっているので、ゲストをお呼びするにしても、結果的に偏りがなくなっていく気がします。逆に、それだけ幅広くお客さんに認知してもらえる可能性もまだあると思います。

**森** お客さんの側でも、今まで小説しか興味なかったけど、現代アートも見てみようかなとかって思っていただけならうれしいですね。それこそTERATOTERAとして、やったかがあった、っていうことでしょうか。❶



# 広報

これまでご紹介させていただいた企画は、どれも魅力的で、日本中のみなさんに見てもらいたい企画ばかりです。少しでも多くの人たちにその魅力を伝えるために、広報チームは発足しました。

広報とはいっても、最初は何をしたらいいか手探りの状態から始まりました。チラシ？ リリース？ Facebook？ とにかく思いつくところから始めていったという感じでした。

アンケートを読みこみ、どんなアプローチで集客できているかを確認したり、プレスリリースメールのタイトルを工夫して開封率を上げるようにする等、試行錯誤を繰り返す日々が続きました。その甲斐もあり、プレスリリースは有名なカルチャーニュースサイト等でも取り上げられるようになり、Facebookの「ページいいね数」もこの一年で1.7倍近くまで増やすことができました。

そんな工夫を続けてきた日々でしたが、広報チームは決して孤独ではありません。Facebookへの情報投稿や地域へのチラ

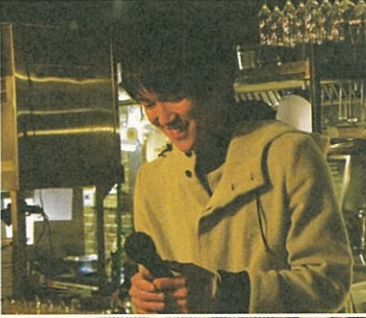
シ配布などでは、他のTERAKKOスタッフの手助けがとて大きく、特に地域に密着したネットワークを持つTERAKKOの力は非常に心強かったです。

そんなTERAKKOスタッフの支えや広報チームの努力もあり、TERATOTERA祭り最後のイベント、off-Nidrollによる「街にひそむ」は、150名を超えるお客様を動員し、大成功に終わりました。

これからももっと工夫を凝らした広報活動を行っていきたいと思います。

(森聡史)





私の大事なモノ！  
TERATOTERANじーかんだ

楽しい時間と  
おいしいご飯と  
愉快な仲間たち  
清季重見子

学校でも会社でもない、  
「社会」と「私」を繋ぐパイプ。

そして、「誰かと共に見る夢は現実だ」  
と心から思えた、テラッコの仲間たち。

感謝!! 宮久実那

テラトテラに関わるようになって、  
街々の魅力を知ったり、テラッコたち  
との活動の中やテラトテラに訪れる  
お客さんのゆるやかなフタガツリの中  
で、自身の考え方や人格まで  
変化し、様々なことに目を向け  
られるようになりました。

日常の延長線上  
にある

ワクワク

高田美

遠山尚江

小毎して楽しんで飲み仲間と！彼氏！  
みずぽ



チャレンジする事の楽さ

新 聡 史

此処には 得難い  
ものが沢山ある... その  
ひとつひとつを瞳を輝か  
せながら拾う自分に出会  
えた事。それが一番の宝物  
になりました。 前川順子

いつもとは  
違う1日のさとうか+2

似て=似た思ふを指針=人=ちとの  
出会いと、面白い作家=ちとの交流、  
それと退屈した日  
棚屋 付味子

いろいろな出会いと、  
たのびの喜び溢れに  
あふみこ...  
つっつっつします。  
またがみま...

あまり関係わら  
いませんが、このまちで  
暮らすことが、ちよと  
たいて楽しくな、た気が  
します  
藤岡 恭平

TERAKKO

西岡一正	脇屋佐起子	飯島彩子	大内彩香
前川順子	遠山尚江	佐藤佳那	高田 圭
千葉佐奈子	滝本亜魅子	北川麻衣子	高見あや子
吉田絵美	藤岡恭平	秋山友紀	三矢宗一郎
森 聡史	秋葉大介	竹内友貴	伊勢数磨
宮久実那	田中秀康	伊藤真希子	大山 香苗
高村瑞世	東 凜子	范 丹明	

チーフディレクター：小川 希

ディレクター：國時 誠

事務局長：小澤恭子

後援：武蔵野市 [TERATOTERA SOUND FES.、TERATOTERA祭り、Civic Pride]、  
杉並区 [TERATOTERA祭り]、スウェーデン大使館 [Civic Pride]

協力：HYM (ハモニカ横丁ミタカ) [私を委ねる場所、Civic Pride]、  
井の頭公園100年実行委員会 [TERATOTERA SOUND FES.]、  
武蔵野市中央地区商店連合会、学校法人東海大学望星学塾、(有)三協住宅社、  
株式会社永谷、(有)ロボット [以上、Civic Pride]

協賛：コピス吉祥寺 [映像インスタレーション]

助成：杉並区文化芸術助成事業 [TEMPO de ART]

TERATOTERA 2013 "commit" Document / TERATOTERA 2013 の作り方

編集：須川善行

デザイン：原田光丞

写真：飯川雄大 [TERATOTERA SOUND FES.]

Hako Hosokawa  
[TEMPO de ART 2013、Civic Pride]

TERAKKO

印刷：ハシモトコーポレーション

発行：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室

〒130-0026 東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国5階

Tel: 03-5638-8800 Fax: 03-5638-8811

お問合せ先：一般社団法人Ongoing

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7

Tel/Fax: 0422-26-8454 E-Mail: info@teratoterajp

http://teratoterajp

平成26年3月 ©一般社団法人Ongoing ©東京文化発信プロジェクト室

無断転載・複写を禁じます



**特別上映《つみきのいえ》** [監督]加藤久仁生 [脚本]平田研也 [音楽]近藤研二 [制作]ROBOT

水没した土地で暮らすひとりの老人をめぐるアニメーション。家族の記憶をたどるシーンは、「Civic Pride=市民としてのまちへの誇りと愛着」を考える、身近な接点なのかもしれない。



**トークイベント|アートとシビックプライドの交差点**

2月23日[日]|HYM(ハモニカ横町ミタカ)  
 紫牟田伸子(編集者/プロジェクトエディター)  
 大田佳栄(スバイラル/株式会社ワコールアートセンター キュレーター)  
 藤田宜久(武蔵野市中央地区商店連合会副会長 兼 路線商業活性化委員会委員長)  
 司会=スズキヨウコ

**スペシャル鑑賞ツアー**

2月23日[日]  
 アーティスト中島由夫さんの直筆Tシャツを身につけ、アートコミュニケーションター沼田直由さんの見どころ解説つきで全8会場を見学した。



6 山本高之 | YAMAMOTO Takayuki

「あたらしいわざ」をつくる公開制作に子供たちが参加。2日目は制作された映像が会場で上映された。



Photo Area 福永信 | FUKUNAGA Shin

「ピクニック、三か所の二人」と書かれた冊子に導かれて歩いていくと、公園などの3つのポイントに置かれたのぼりにメールアドレスとキーワードが書かれている。メールを送信すると、冊子に書かれた文章の続きが返送されてくる。



**飯川雄大** | IKAWA Takehiro

ボールが来ない間のゴールキーパーの行動を捉えた映像作品。見過ごされていた日常の記憶が呼びさまされる。



**永畑智大** | NAGAHATA Tomohiro

「特許・日本一へたな歌手 上床敬子®のレストラン喫茶」の店内に、生命力溢れる彫刻作品が展示された。



**中島由夫** | NAKAJIMA Yoshio

三鷹駅北口の駅前で、2日間熱気溢れるライブペインティングが行われた。別会場では作品の展示も。



**山本篤** | YAMAMOTO Atsushi

「理想の街を描く」ワークショップの隣では、立入禁止になった土間で怪しげな床屋さんが作業をする姿が目に入る。

# Civic Pride わたしたちのまちわたしたちのアート

平成26年2月22日[土]・23日[日] 12:00-18:00 JR三鷹駅北口周辺施設、空店舗など8カ所



Report

「Civic Pride わたしたちのまち・わたしたちのアート」は、アートプロジェクト開催のスキルを学ぶ実践講座「Tokyo Art Research Lab アートプロジェクトを456(仕込む)」とTERATOTERAがコラボレーションした特別企画で、2月22日(土)・23日(日)の2日間、JR三鷹駅北口周辺を舞台に6名のアーティストとともに開催しました。

本展覧会は、企画立案から作家選定までを「アートプロジェクトを456」の受講生が担い、当日の運営は、受講生に加え、これまで幾度も展覧会を実現してきたTERAKKOがアーティストの作品発表の場をサポートしました。展覧会名に掲げられた「Civic Pride」は、「Civic Pride=市民としてのまちへの誇りと愛着」を育むために、アートがどのような役割を担えるのかを考察したいという受講生の想いから選ばれたものです。

会期中、三鷹の街中にはさまざまなかたちをとったアートが現れました。屋外での熱気溢れるライブペインティング、異彩な喫茶店にさらなる彩りを加えた純粋彫刻、子供たちと「あたらしいわざ」をつくる公開制作……。2日目には、この展覧会に訪れた方たちにアートとシビックプライドの関係性について考えていただく機会として、トークイベントや作品鑑賞ツアーを開催しました。

2日間の来場者数は、延べ1500人以上となり、「面白かった」「またやってほしい」という声も多数聞かれました。本企画によって、日常に突如として生まれたアートとの出逢いが、何年、何十年と経ったときにこの街の記憶として蘇るのであれば、今後アート作品が「市民としてのまちへの誇りと愛着」として育まれていく可能性を見出す始まりの一步になるのではないのでしょうか。

(高村瑞世)

## 映像インスタレーション

平成25年10月11日[金]—11月4日[月・祝]日没よりコピス吉祥寺(吉祥空園sora A館3F屋上)

志村信裕



コピス吉祥寺の吉祥空園SORAでは、日没後、アーティストの志村信裕による映像インスタレーションが展示されました。会場となった3階テラスは植込みもベンチもある憩いの空間で、店舗の営業時間外でも外階段で通りから出入りできますが、この時期は日暮れとともに人気もなくなり<sup>ひとけ</sup>ます。そんな夕闇に包まれたウッドデッキに映し出されるのは、色とりどりの光を放ちながら、キラキラと足元に降り積もるボタンの映像。頭上から降り注

ぐ宝石のような光の水玉は偶然そこを通りがかった人々の体に映りこむことで闇に立ち上がります。足下の光を無邪気に追う子供たちやその光の玉を纏った姿をみつめる大人たち、それぞれの視点でいくつもの景色が生まれました。(千葉佐奈子)

志村信裕 | SHIMURA Nobuhiro

1982年東京都生まれ。武蔵野美術大学大学院映像コース修了。「光をあてる」をテーマに、これまで一貫して映像プロジェクトによるインスタレーションを国内外で多数発表。その表現は路地裏から美術館まで場所に限定することなく自由に展開される。2011年地域が選ぶ黄金町バザール賞受賞。



## 先こぼれ芝天狗 in ルミネ荻窪店

平成25年10月15日[火]—10月31日[日] 11:00—22:00 ルミネ荻窪店5階レストランフロア

東方悠平

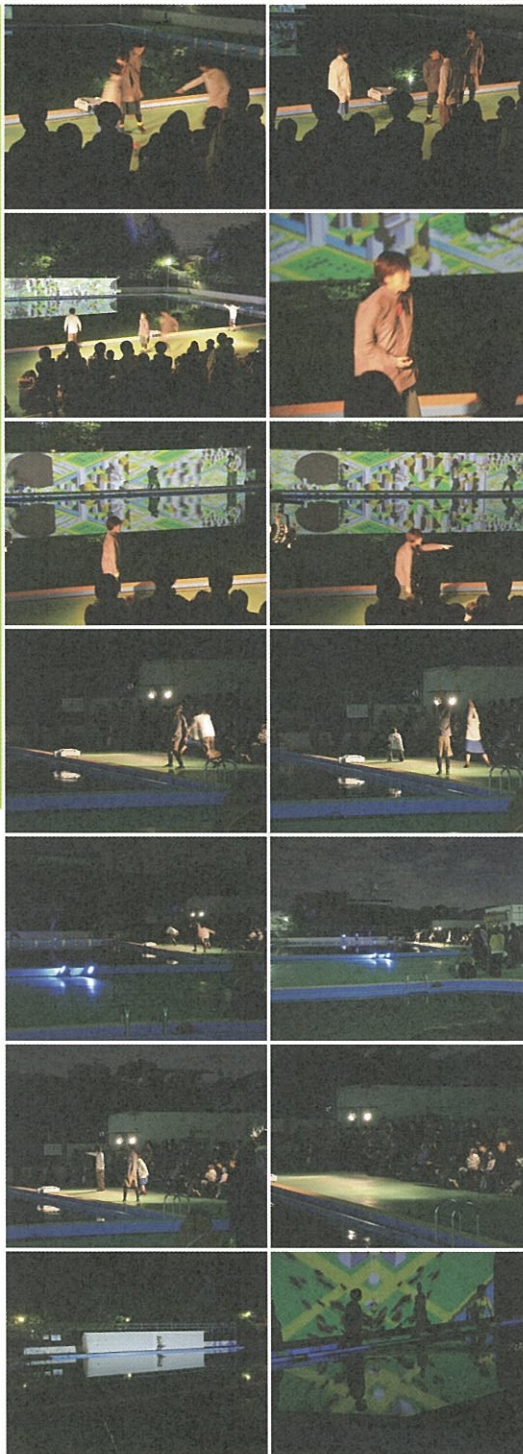
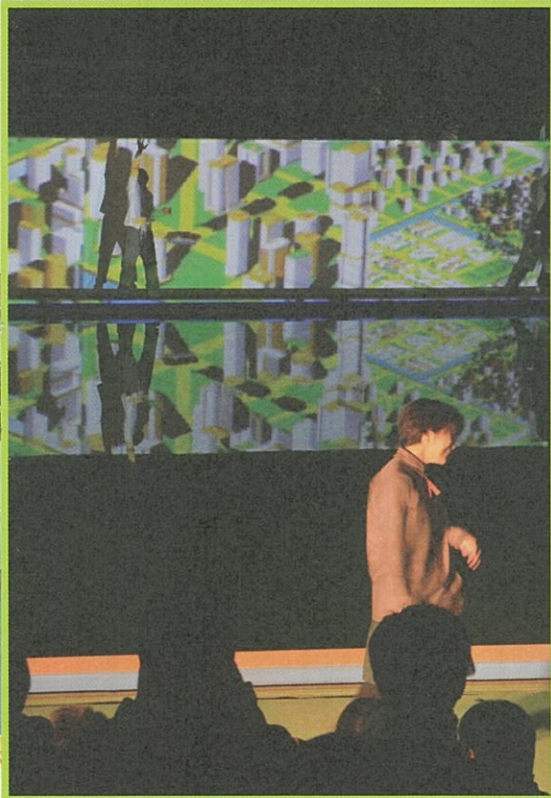


ルミネ荻窪では10月15日から約半月にわたり、アーティストの東方悠平による展示が行われました。その名も『先こぼれ芝天狗 in ルミネ荻窪店』。表面を芝で覆われた天狗をモチーフとした立体作品を展示。ファッションビルにはそぐわないはずの天狗が、芝に覆われることでファッションナブルになって出現しました。ビル群の中であって、手入れの行き届いた芝生とレンタル菜園を持つルミネ屋上の場所性を活かすことで、荻窪を代表するファッション

ビルと、日本古来の伝説のいきものとの融合を実現しました。さらに、天狗の鼻からは水が噴き出る仕掛けがあったりとユーモアに溢れ、ルミネ荻窪を訪れた子供たちは興味津々でした。（森聡史）

東方悠平 | HIGASHIKATA Yuhei

1982年北海道生まれ。筑波大学大学院修士課程芸術研究科総合造形コース修了後、玉川大学芸術学部ビジュアル・アーツ学科助手。2010年に『岡本太郎現代芸術賞』に入選したほか、2011年には『神戸ビエンナーレ』の『しつらいアート国際コンペディション』で奨励賞に輝いている。



ルを会場に選んだ。自分たちの住む街が、  
 アートをきっかけにして別の顔を見せるとき、  
 人は何を思うのか。残り香のようなその不思議な気持ちは、絆という使われすぎた言葉の意味を、今一度問い直すきっかけとなってくれるのではないだろうか。 (前川順子)

**off-Nibroll**

ダンスカンパニー・Nibrollの映像・高橋啓祐と振付家・矢内原美邦によるユニット。劇場をはじめ、美術館、ギャラリー、パブリックスペースなど多様な空間で作品を発表。映像インスタレーションとともにダンスパフォーマンスも展開し、身体と映像の関係性を追求している。

BankART横浜、広島市現代美術館、高松市美術館などでのグループ展の他、せんだいメディアテークや大原美術館等にて個展を開催。越後妻有アートトリエンナーレや上海ビエンナーレといった国際展への参加をはじめとし、台湾、韓国、ドイツ、イタリアなど国内外での発表をおこなっている。

## 街にひそむ

平成25年11月16日[土] 17:30-18:00 阿佐谷けやき公園プール

off-Nibroll



夏には中央線の車窓から水しぶきをあげる子供たちが見える阿佐谷けやき公園プール。秋の夜には、木々の葉ずれの声の中、昼間とはまったく違う表情をまとう。プールサイドに集まった150名の観客の前に、ダンサーが歩みだす。off-Nibroll「街にひそむ」の幕が開く。映像と演劇とダンスの融合。住宅街の真ん中なので大きな音は禁物とあって、アコースティックなパフォーマンス。役者と2人とダンサー2人が、プールの周りをぐるぐる駆けめぐり、しなやかに踊り、言葉を放つ。プールの長辺に沿って張られたスクリーンに抽象的な映像が投影されると、その反射光が水面に合わせ鏡のように映りこみ、観客は水の底の世界へと誘いこまれてしまう。肉声が湿った夜

気の中に響く。「それは私の靴です。」夢の断片を積み重ねるようにして、なくした靴をめぐる物語が紡がれてゆく。見慣れたプールで繰り広げられる、かつて見たことのない光景。そのありさまを一瞬たりともとり逃すまいと、幼い子どもさえ固唾を呑んで見入っている……。

20分あまりの冒険が終わると、一瞬の沈黙の後、呼吸を始めるように拍手が起きる。観客には、Nibrollのファンのみならず、近隣の家族連れも数多い。忘れていた寒さに思わず目を上げれば、銀色の満月。いま目撃したばかりの事件について語り合いながら立ち去る観客の後ろ姿を、高架を走り抜ける電車の明かりが照らし出す。

TERATOTERAは昨年度に引き続き、区民プー

## 公開講評会

「TEMPO de ART」開催期間中に、公開講評会が2度開催されました。現代アートの専門家である現役の美術館学芸員とギャラリストをお招きし、展示会場の店舗すべての作品をごらいただいた上で、参加アーティストの作品や企画についての講評を公開の場でいただくもので、若手アーティストと運営側の双方にとって、直接意見をうかがえる貴重な機会となりました。

10月26日[土] | 19:00-21:00

ゲスト: 高橋瑞木 (水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

会場: 旅の本屋のまど

「ちょっと雰囲気硬くないですか!? もうちょっとリラックスしてください!」ゲストの水戸芸術館学芸員の高橋瑞木さんの一声で、司会を務めるTERAKKOたちの緊張した面持ちが笑顔に変わり、和やかなムードで第1回公開講評会がスタートしました。水戸では街中でのアート展示に取り組んでおられる高橋さん、「TEMPO de ART」のアプローチに対し、「店の雰囲気込みだから作品だけを講評するのが難しい」としながらも、作家ひとりひとりから話を引き出しつつ作品を力強く読み解いていきます。企画全体の総論として「協力してくれるお店にオリジナリティがあり魅力的だから、その場の力と拮抗するには『この店で絶対やりたい』という強いモチベーションが作家に必要」との言葉をいただきました。

11月3日[日] | 19:00-21:00

ゲスト: 浦野むつみ (ARATANIURANO 代表)

藤城里香 (無人島プロダクション代表)

会場: STORE

第2回の公開講評会には、ギャラリー運営、海外のアートフェア参加などご活躍されているARATANIURANO代表の浦野むつみさん、無人島プロダクション代表の藤城里香さんをお招きしました。

Chim↑Pomや西野達らの展覧会に深く関わるお二人ですが、作品の講評では、作品の見せ方にもっとサービス精神が必要ということや、鑑賞者に対する作家からの説明の仕方の重要性などについて、ご意見をいただきました。企画全体の感想としてお二人が共通して挙げられたのは、表現が制限される店舗という空間でアートを展開することの難しさ。藤城さんからは作家のステートメントや過去資料が見られるような拠点の必要性を、浦野さんからは参加作家の選定方法についてアドバイスをいただきました。



[右] 高橋瑞木 | TAKAHASHI Mizuki

森美術館開館準備室を経て、現在水戸芸術館現代美術センター主任学芸員。近年担当した主な展覧会に、「Beuys in Japan ボイスがいた8日間」(2010年、水戸芸術館現代美術センター)、「クワイエット・アテンションズ 彼女からの出発」(2011年、同)、「高嶺格のクールジャパン」(2012年、同)、「ダレン・アーモンド 追考」(2013年、同)。美術館外でも「複合回路: 接触領域」(2010年、ギャラリーαM)、「成層圏: 風景の再起動」(2011年、同)などを手がける。著書に志賀理江子、山川冬樹、高嶺格、遠藤一郎らのインタビュー本『じぶんを切りひらくアート』(フィルムアート社、2010年)。



[左] 浦野むつみ | URANO Mutsumi

大学在学中よりSCAI THE BATHHOUSEにて約10年間勤務。2007年に独立し、荒谷智子と新富町にギャラリーをオープン。

2012年に港区白金の現スペースに移転し、ソロ活動を始める。浅井裕介、岩崎貴宏、泉啓司、衣川明子、小西真奈、小西紀行、西野達、大木裕之、高嶺格、梅津庸一、渡辺豪、横山裕一など、特異な表現で注目を集める作家のマネジメント及び国内外のプロモーションに力を注いでいる。

[右] 藤城里香 | FUJIKI Rika

2005年までの約11年間、ミゾアートギャラリー勤務。2006年に独立し無人島プロダクションを設立。2010年に高円寺から清澄白河に移転。八谷和彦、八木良太、Chim↑Pom、風間サチコ、白井良平、朝海陽子、田口行弘、松田修、加藤翼といった、社会や歴史を独自の視点で切り取った表現活動を展開する作家たちの活動を世界に向けて発信中。DVDやTシャツといったオリジナルプロダクトの制作や書籍の企画・編集なども行っている。

## 山崎悠人 × STORE



山崎悠人 | YAMASAKI Yuto

1983年福岡県生まれ。2007年武蔵野美術大学彫刻学科卒業。2009年武蔵野美術大学大学院美術専攻彫刻コース修了。無意識の中から作品を生み出すべく、大小様々な観葉植物の木彫を大量に制作する。

yamasakiyuto.tumblr.com

外からも見える店内には、溢れるように展示されたたくさんの観葉植物。しかし、近づいてみると、それらはすべて木製の彫刻なのだ。個性的でカラフルな衣服を扱う店内に、不思議な生命感が漂う。

### STORE

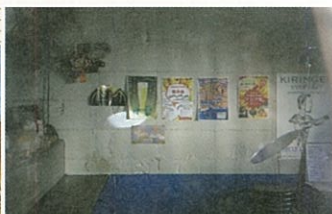
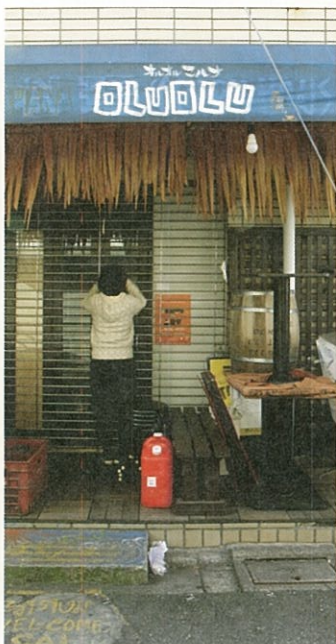
杉並区西荻北5-7-19

営業時間：12:00-19:00 | 月・火 定休

storestore.net

《Plants》2013 | 木

## 渡辺俊介 × OLUOLU MAHANA



渡辺俊介 | WATANABE Shunsuke

1986年東京都生まれ。映像作家 / 美術家。日常の様々な要素や身体などを、映像と音を用いて紡ぐ事で、誰しもの感情に潜む心象風景を見せてくれる。

shunsukewatanabe.org/

海の家をテーマにして開放感溢れる飲食店の営業終了後、天井から投影される映像が、回り続ける3枚の鏡に反射して店内を灯台のように照らし出す。作品は店外から覗き込むようにして鑑賞する。

### OLUOLU MAHANA

東京都杉並区西荻南3-12-1 日伸西荻プラザ A8-1

営業時間：平日18:00-翌3:00

土日祝 16:00-翌3:00 | 木定休

ameblo.jp/oluolu-mahana

展示時間：OLUOLU MAHANAの営業終了後、

金-水 3:00-15:00

《帰郷を待つ光》2013 | 鏡・銅・鉄・電動機・映像

## K 福井拓洋 × Fuji Cleaning



福井拓洋 | FUKUI Takahiro

1986年静岡県育ち。2012年多摩美術大学院美術研究科彫刻専攻修了。既に用途が決まっているもの・ことが溢れる中で、あえて用途を定めずに「何かを行うための装置」となる彫刻作品を制作。鑑賞者に「装置」から「用途」を想像させ、新たな世界の側面を見せようとしている。

店舗2階半分と鉄骨の螺旋階段を含む吹き抜け空間全体に「何かを行うための装置」をテーマとしたインスタレーション作品を設置。作品はガラス窓越しに通行者の目に入り、その用途についてさまざまに想像させる。

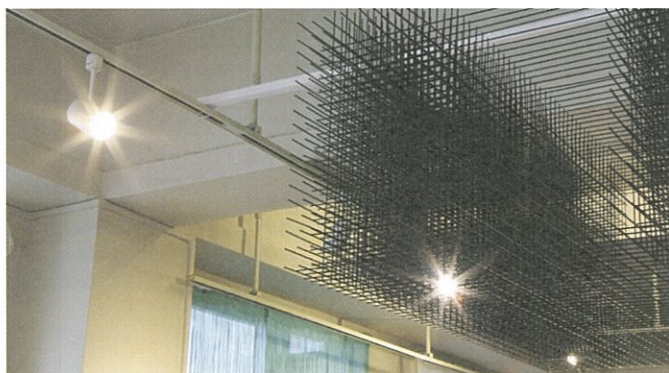
Fuji Cleaning

杉並区西荻北4-3-1

営業時間：平日8:00-20:00 土日祝 10:00-19:00 | 木 定休  
prof929.com

《エリア431》2013 | ミクストメディア

## D 福井拓洋 × Chill Mie Cafe



カフェの一角に浮かぶ漆黒の立体作品。1mmほどの角棒を格子状に組み、それを何層にも重ねたもので、見る角度によって表情を変えるが、注意深く見つめると、そこには2mm程度の人の姿が……!

Chill Mie Cafe

杉並区西荻北3-41-11 茗葉マンション101

営業時間：11:30-23:00 (L.O.22:30) | 火 定休



《ビルディング》2013 | 木、アクリル

## U 苦肉 × ハンサム食堂



### 苦肉 | Niganiku

1985年熊本県生まれ。2009年武蔵野美術大学映像学科卒業。立体、平面、映像、インスタレーションなどジャンルを問わず制作。おもちゃや日常に在るものを使った映像、作品のメモ、落書き、覚え書き等々を使い日常からアートを引っ張りだし、アートを日常にとけ込ませていくなどの試みをしている。

ハンサム食堂2号店の2階、天井中央に吊るされるのは、約1m幅の彫刻作品「偶然の偶像」。ほかにも数点の作品が、アジアンティスト溢れる店内の調度品にまじって展示され、独特な空間を生んだ。

### ハンサム食堂

杉並区西荻南 3-11-5  
営業時間：火-金 18:00-25:00 | 土 17:00-25:00  
日 17:00-24:00 | 月・第3日曜 定休

《偶然の偶像》2013 | スタイルホーム、樹脂、玩具、アクリルガッシュ (立体) | 10min (映像)

## H 苦肉 × David & Jonathan



Tシャツと雑貨を扱う店舗のショーウィンドーで、映像作品「偶然の偶像」が外に向けて上映され、通行する人々の興味を誘う。ポップな雰囲気の店内には、写真やイラストなどの他作品も展示された。

### David & Jonathan

杉並区西荻南3-18-3  
営業時間：11:00-20:00 | 月・火 定休  
www.d-and-j.jp

《偶然の偶像》2013 | 10min  
テレビモニター上映 (映像)、ミクストメディア

## F 関川航平 × FALL



関川航平 | SEKIGAWA Kohei

1990年宮城県生まれ。2013年筑波大学芸術専門学群特別カリキュラム版画コース卒業。放送事故のような「壊れた」状態や、フィクションとノンフィクションの間の緊張感に、制作のテーマを見出している。インスタレーションやパフォーマンスなどジャンルを問わず制作。  
ksekigawa0528.wix.com/sekigawa-works

古びた小説から切り取られたページが壁に貼られている。よく見ると、そこでは文章の中の「私」という文字が塗りつぶされ、線で繋がれている。「私」を消すことで、予期せぬ形が生まれるのだ。

FALL

杉並区西荻北3-18-10 #102  
営業時間:12:00-20:00 | 月・火 定休  
fall-gallery.com

《私たち》2013 | 小説(142×105mm)40枚 | インク

## G 津田翔平 × nombre



津田翔平 | TSUDA Shohei

1986年東京都生まれ。実験建築家/Noise Artist。新たな空間認識の可能性を探る実験や、様々なノイズを題材とした作品を制作。インスタレーション・立体・平面・映像・音楽・デザイン等、作品の媒体は問わず幅広く活動。ノイズ専門レーベルUNNOISELESS主宰。  
shoheitsuada.net unnoiseless.net

数字をモチーフとした商品を扱うnombre。数字の0が、漢字表記では「零(わずかにある)」となることから、屋内にあって雨のあたることのない窓ガラスに水滴を浮かばせる幻想的な作品が生まれた。

nombre

杉並区西荻南3-7-14 アミーハウス1階奥  
営業時間:13:00-18:00 | 月・火・水・日 定休  
nombre.jp

《零-rei-》2013 | 木、窓ガラス、ビニール



## 岩崎が×VIVACE カイロプラクティック



岩崎が | IWASAKI Go

1984年青森県弘前市生まれ。  
脚本のようなものを、毎日読んでいる気がする。  
自分の価値判断さえ、振り付けの確認にすら思える。  
私は、あなたの「神話」が聞きたい。

店舗入り口の外側、施術ベッドの上、トイレ、と3カ所にそれぞれ異なる方向の作品が展示された。岩崎の意図は、鑑賞者と作品が偶然出会うこと、構えない状態で作品を鑑賞してもらうことにある。

### VIVACE カイロプラクティック

杉並区西荻南3-1-1  
営業時間：平日10:00-20:00頃  
土日祝10:00-18:00頃 | 火 定休  
vivacechiro.net

上・左 | 下・左 | 《てんけい》2011 | 印画紙、木  
上・右 | 《毛深い女・男》2011 | 印画紙、無酸紙  
下・右 | 《"Hello, world!"》2013 | 印画紙、エポキシ樹脂  
《ゴリンのショー》10月27日(日) 19:00-21:00  
パフォーマンス | 出演：渡邊潤、岩崎が、Olegg Lermontov

## 椋田愛×N302



椋田愛 | UMEDA Ai

1988年生まれ。2012年武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。幼少期のピアノ・バレエ・造形教室での体験から、それらを併せて何かできないかという気持ちから芽生え、大学で舞台美術を学ぶ。エンターテインメントに関わる様々なメディア・分野をまたいだ総合的表現で、日常に潜む異世界感や非現実感の中にある物語を切り取っていく。

曾祖父の時代に建てられた洋風家屋の取り壊しを機に着想された、記憶を記録する作品。  
家族の写真が紙フィルムによって上映され、インスタレーション的な展示も。パフォーマンスも実施された。

### N302

杉並区西荻南2-20-8 山田ビル302  
営業時間：12:00-20:00

《本町の家のためのテアトル・オブティーク》

2011 | ミクストメディア

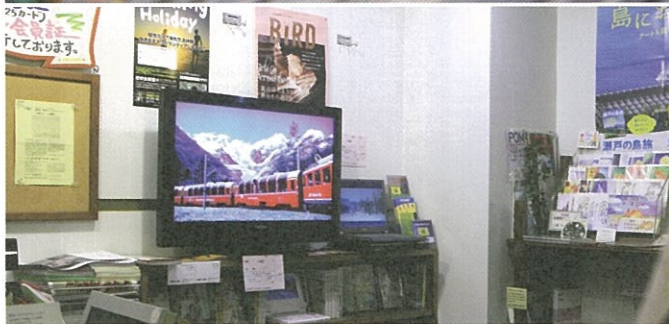
《テアトル・オブティーク上映会》

椋田愛の作曲した楽曲を弦楽四重奏で演奏。

10/26(土) 17:30-18:30 | 11/3(日) 17:30-18:30-

出演：椋田愛、安藤梨乃(Vt)、久保田綾香(Vl)、片山唯央(V)、石橋啓子(Via、Va)、入江晴美(Vc)、北村美咲[ピアノ] (語り)

## A 秋山由希×旅の本屋のまど



秋山由希 | AKIYAMA Yuki

埼玉県で生まれ育ち、15歳で単身渡豪、18歳から渡米し映像芸術を学ぶ。2012年マサチューセッツ美術大学を首席で卒業。主に現代社会の人と人との間を主題に、様々なサブカルチャーを学術的に捉え、視覚的な構成を組み立てていく映像作品を制作。作品は日本、アメリカ、スペイン、エジプトの映像祭で上映されている。yukimokoa.wix.com/index

自身の映像作品から「移動」に関するシーンだけを抜き出し、旅の本を集めた店内のあちこちに置かれたモニターで上映する。週に1度だけ上映される別映像では、このテーマが別の角度から扱われる。

旅の本屋のまど

杉並区西荻北3-12-10 司ビル1F  
営業時間:12:00-22:00 | 水 定休

上 | 《voiceless march》2013 | about 5min×6  
テレビモニター、DVDプレーヤー上映、iPodでの再生  
《Voiceless》2011 | 30min47sec | テレビモニター上映

## B 秋山由希×常盤屋牛肉店



営業終了後の店舗のシャッターに上映される映像作品。そこではさまざまな国籍の男女が行き交い、輪になって向かい合い、手や膝を叩く。映像の中の人々と鑑賞者との間に新たな関係が生まれる。

常盤屋牛肉店

杉並区西荻南3-9-5  
営業時間:10:00-21:00 | 日・祝 定休

《Nature, Culture, Architecture》

2012 | 10min11sec | 映像インスタレーション  
映像上映:常盤屋牛肉店の営業終了後、火-土 21:00-23:00

# TEMPO de ART 2013

平成25年 10月20日 [日] - 11月17日 [日] JR西荻窪駅周辺13店舗

\* 休日 = 月曜・各店舗の定休日、開催時間 = 各店舗の営業時間による

独自の“テンポ”を貫く“店舗”で、若手アーティストが1か月の間、作品展示を行う「TEMPO de ART」が、2013年も西荻窪で開かれました。前年に開催した「西荻映像祭」から発展し、本年度はジャンルを問わず30歳以下のアーティストたちの互選によって、参加アーティストを決定。10組のアーティストによる13店舗での展示が行われ、大きな話題を呼びました。会期中には、公開講評会、テアトル・オブティーク上映会、ゴリンのショー、完全攻略ガイドツアーといった企画も行い、西荻窪にお住まいの皆さんとアートとの距離はぐっと縮まったようです。

## 池田拓馬 × galerie non



池田拓馬 | IKEDA Takuma

1983年神奈川県生まれ。2009年東京藝術大学大学院修了。「今いるここはどこなのか」という問いをもとに扉を用いたインスタレーション、夜景をコラージュした映像作品を制作。近年の展覧会に「群馬青年ビエンナーレ2012」入選、「きのうあったことについて」、「TERATOTERA祭り」、「入る旅人出る旅人」など。takumaikeda.com

光の羅列のような夜景をつなぎ合わせて、街の胎動を感じさせる映像作品を生み出す池田。今回は、洋服や雑貨などの隙間に、風景を光の点へと変換する意欲作「dot」など、3点の作品が配された。

### galerie non

杉並区西荻北4-3-4 美光武蔵館101  
営業時間:13:00-19:00 | 月 定休

上 | 《DOT》2013 | ミクストメディア  
下・左 | 《Over There (Root 6)》2011 | 5min11sec  
下・中 | 《Over There》2008-2010 | 各1分  
下・右 | 《Empty Gift》2013 | ミクストメディア



【左から】松本哉・新雅史・コタケマン(セルフ祭り)・岡内ゆり(セルフ祭り)・石原孝一(六角橋商店街)

パネリストたちが抱える課題やこれまでの経験談、いま思うことを次々と語り、夜は更けてゆきます。コタケマンさんの「よそ者が商店街に受け入れてもらうには、挨拶と掃除が基本」との発言に真面目な一面が垣間見えたり、石原さんの「行政からお金をもらうと、イベントの自由度が低くなるから断わる」という発言には、松本さんも同感の様子。後日、参加者のブログでは「オルタナティブな活動をしている人達に活動のヒントをくれるようなイベント」や「商店街問題に前のめりで興味を持つきっかけになったいいイベント」との声が見られ、今後の新たな広がりを見えさせました。

(脇屋佐起子)

#### 新雅史 | ARATA Masahumi

1973年福岡生まれ。社会学者(産業社会学・スポーツ社会学)学習院大学非常勤講師。著書に、ベストセラーとなった『商店街はなぜ滅びるのか 社会・政治・経済史から探る再生の道』(光文社新書)、近著に『「東洋の魔女」論』(イースト新書)がある。

<https://twitter.com/arapyon>

#### 松本哉(古物商) | MATSUMOTO Hajime

p.11を参照。

#### セルフ祭り [大阪 / 浪速区]

2012年5月、過天閣開業100周年を記念して、隣接する新世界市場の商店街を舞台に「自分で祭を作ろう!!」を旗印に始まった世紀の奇祭。ド派手な衣装や山車、お囃子で練り歩くパレードや物々交換マーケットなどに始まり、吊りまつり、セルフ神社、セルフステージ、セルフ屋敷など、ユニークなイベントで精力的に活動を続けている。

<http://selfmatsuri.oujaru.jp/>

#### 六角橋商店街 [横浜 / 白楽]

旧綱島街道筋に多数集まっていた商店が戦後に闇市へと発展し、現在も160の店舗が軒を連ねる商店街。近年は後継者不足でシャッター街にありつつあったが、空き店舗を積極的に貸し出すことで活性化を図っている。閉店後の店舗前を利用した「ドッキリ闇市場」やプロレス団体「大日本プロレス」による商店街デスマッチ「商店街プロレス」など、斬新なイベントを開催するなど、注目を集めている。

<http://www.rokkakubashi.jp/>

# TERATOTERA祭り2013

“commit”



@高円寺

## 商店街サミット

平成25年10月5日[土] 19:00-21:00

@西荻窪

## TEMPO de ART 2013

平成25年10月20日[日]-11月17日[日]

@阿佐ヶ谷

## 街にひそむ off-Nibroll

平成25年11月16日[土] 17:30-

@荻窪

## 先こぼれ芝天狗 in ルミネ荻窪店 | 東方悠平

平成25年10月15日[火]-10月31日[日] 11:00-22:00

@吉祥寺

## 映像インスタレーション | 志村信裕

平成25年10月11日[金]-11月4日[月・祝] 日没より

TERATOTERA祭り@高円寺

## 商店街サミット

平成25年10月5日[土] 19:00-21:00 AMPcafe 2F

新雅史 (社会学者)・松本哉 (古物商)

セルフ祭り代表者 [大阪]・六角橋商店街代表者 [横浜/白楽]

Report

夕方まで雨がぱらつき、お客様の出足が心配されましたが、蓋をあければ予約35席は空席なし。立ち見も出るなかでイベントは始まりました。大阪は新世界市場でド派手な奇祭「セルフ祭り」を主宰するコタケマンさんが、独特の衣装とお化粧を施した姿を現すと、どっと笑い声があふれます。コタケマンさんのお芝居がかったプレゼンに続き、商店街の枠組みを軽々と飛び越えた、これまでのイベントを紹介する六角橋商店街代表の石原さん、最近では私設大使館をつくってしまったという松本哉さんが、ユニークな取り組みを紹介。実は商店街の酒屋さんのご子息という、社会学者の新雅史さんの鋭い分析を交えながら、



[左]ウタモ [右]オオルタイチ

## ライブ

陽が徐々に傾きだしてから、オオルタイチ+ウタモのライブが始まりました。大きな木の下に設置された雨よけのキャンプ用テントがステージです。客席の上に広がる枝と葉がパラつく雨を遮ると、会場は洞窟のような空間に姿を変えます。そこにアコースティックギターとキーボードが奏でる心地良い音楽と、人間界のしがらみなど軽々と超えた自由な歌声が響き、私たちの心もどこか別の世界に連れ去られてしまうよう。集まってくださった、たくさんの音楽好きの若者や近隣住民の方も、雨音と歌声が作り出す今ここでしか味わえない音楽に酔いしれていました。

(遠山尚江)



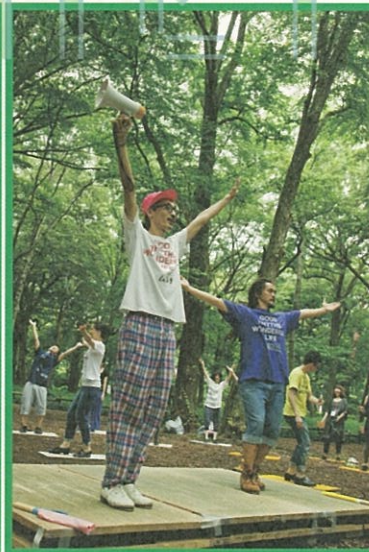
オオルタイチ+ウタモ | Oorutaichi+Ytamo

バンド・ウリチバン郡を経て、それぞれソロ活動も活発なオオルタイチとウタモによるエクスペリメンタルアコースティックデュオ。ライブではオリジナルからカバー曲までさまざまな歌ものを披露する。昨年キセルとの東北ツアーを機に ihati EP (CD-R) を制作、また本EP に収録されている楽曲「Plant」は東日本大震災復興プロジェクト DIY HEARTS から配信。今年3月には兄弟ユニット・キセルとの共作「ともしび」などを発表した。目下フルアルバムを制作中。

# TERATOTERA SOUND FES. 公園のリズム 公園のメロディー

平成25年9月8日[日] ワークショップ=14:00-16:00 ライブ=17:00-18:00 井の頭恩賜公園内(西園と御殿山の間の林)

TAPPERS RIOT [ワークショップ]・オオルタイチ+ウタモ [ライブ]



Report

毎日多くの人がやってきてはまた去っていく井の頭恩賜公園。

TERATOTERA は、公園に集う人たちの心に流れるリズムとメロディーに新しい響きを付け加えられないかと、とある秋の日に、タップダンスのワークショップとライブパフォーマンスを企画しました。

## ワークショップ

時おり小雨が舞う初秋の昼下がり、井の頭恩賜公園西園の林の中で、TAPPERS RIOT によるタップダンスのワークショップが行なわれました。緑が生い茂る公園内に、小さなお子さんから大人までの参加者が集まり、色とりどりのタップ板が並べられます。公園を歩き交う人々がときどき興味深そうに様子をうかがう中、TAPPERS RIOT の指揮で一緒にリズムを踏みならしたり、自分たちで振付を作ったり。参加者の息も合ったところで、最後はアコーディオンやヴァイオリンなどの楽器演奏も加わり、息の合ったタップオーケストラを完成させました。(遠山尚江)



## TAPPERS RIOT

熊谷和徳を主宰とするタップダンスカンパニー。KAZ TAP STUDIO を拠点にタップダンスをアートとして捉え、サウンド、ステージをクリエイティブしていく。現在は熊谷を除くメンバーだけの活動も精力的におこなっており、個性派揃いのメンバーによるパフォーマンスはジャンル、世代を越え、高い評価を得ている。ワークショップは全国30ヵ所を超える。2010年、一般公募の参加者とともに公演を行うプロジェクト『TAP the FUTURE』を開始、2011年『X'mas Dream of TAP』@あうるすぽっとでは100名を超えるタップダンサーによるTAPオーケストラを実現した。



【左】藤浩志 【中】松本哉 【右】手塚一郎

く中で3名から繰り返した言葉は、「わけがわからないけれど面白い」。活動の内容は違っても、それぞれに人の結びつきを生み出す場所やシステムを作っているお三方ですが、お話を伺っているうちに、そんな皆さんの共通点がしだいに増えてきました。ひとつは、あらかじめ設定された目的意識や意義とは別のところで起きる偶発性や可能性を大切に、そこで発生する面白いことを汲み取る嗅覚の鋭さ。もうひとつは、いろいろな人を巻き込んで、面白い関係性や状況を生み出すきっかけを作ろうとするエネルギーの高さでした。トークの終盤にもうけられた質疑応答の時間には、活発な質問が飛び交いました。

(滝本亜魅子)

**藤浩志**(十和田市現代美術館副館長、美術家) | FUJII Hiroshi

1960年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て藤浩志企画制作室を設立。「鴨川泳ぐこいのぼり」「ゴジラとハニワの結婚離婚問題」「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaeko」「藤島八十郎をつくる」等、各地で対話と地域実験の場を作るデモンストラーションを実践。http://gecco.jp

**松本哉**(古物商) | MATSUMOTO Hajime

1974年東京生まれ。リサイクルショップ「素人の乱5号店」店主。高円寺北中通り商栄会副会長。96年「法政の貧乏くさきを守る会」結成以来、各地でマヌケな反乱を開始。05年、東京・高円寺で山下陽光らと「素人の乱」をオープン。その後、「3人デモ」「俺のチャリを返せデモ」「家賃をタダにしろデモ」「原発やめろデモ!!!!」ほかとんでもないデモを行う。最近では海外の大バカスポットとの交流も深める。著書に『貧乏人の逆襲〜タダで生きる方法』(筑摩書房)など。

**手塚一郎**(ビデオインフォメーションセンター代表) | TEZUKA Ichiro

1947年、栃木県生まれ。国際基督教大学卒。79年、吉祥寺にビデオ機器販売店を開店。81年にビデオインフォメーション・センター (VIC) を設立。98年、吉祥寺駅前のハモニカ横丁に「ハモニカキッチン」を開店。現在は同横丁内だけでも10店を展開。2013年7月にHYM(ハモニカ横丁ミタカ)をJR三鷹駅北口にオープン。



## 私を委ねる場所

平成25年6月29日[土] 18:00-20:00 HYM(ハモニカ横丁ミタカ)

藤浩志・松本哉・手塚一郎

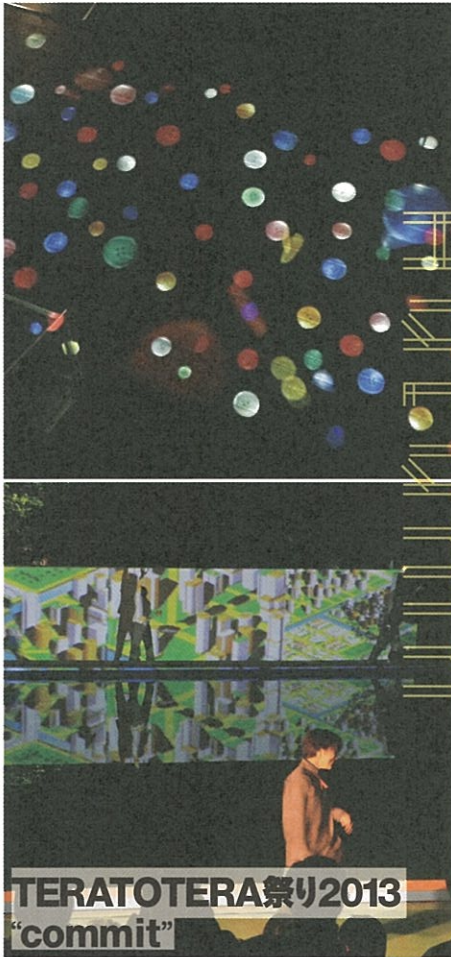


2013年度企画第1弾としてのトークイベントは、「ゆだねる、繋がりをもつ」という意味をもつ“commit”という今年のメインコンセプトをキーワードに、地域や共同体という関係性を軸に精神的に活動している方々をパネリストにお招きしました。美術家で十和田市現代美術館の副館長でもある藤浩志さん、高円寺のリサイクルショップ「素人の乱5号店」店主の松本哉さん、そして吉祥寺のハモニカ横町で10店を経営されている手塚一郎さんです。このお三方に、繋がりを生み出す場やシステムづくりという観点から語り合っていただくことになりました。

会場は、手塚一郎さんが三鷹に新しくオープンする「ハモニカ横町ミタカ(HYM)」の店内。当日は

まだオープン前の未完成状態で、真新しい木の香りがする広々としたスペースにイスが並べられ、オープンドアの開放的な空間にたくさんの観客の方々がご来場されて、トークは始まりました。

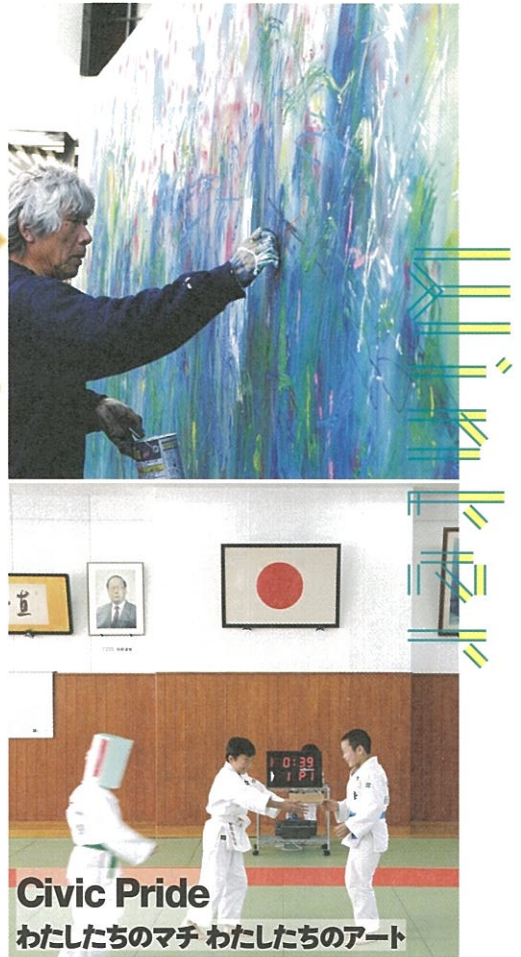
まず最初に、パネリストの皆さんに、これまでに行ってきた活動についてそれぞれお話しいただきました。中でも松本哉さんの世界共通パスポートを自分たちで勝手に作る等の奇想天外な活動には会場から何度も爆笑が。手塚さんは以前に松本さんのトークを聞く機会があって、面白い活動をしている若手として一目置いていたことが判明、お仕事上での面識や関わりがないように思われたパネリスト同士にも、意外な繋がりや共通点があることがわかりました。トークが進んでい



## TERATOTERA祭り2013 “commit”

するメディアとして本当の意味で機能するものなのかどうかを、テラッコの皆さんと一緒に探っていければと思っています。

この文章を読んで気にかけてくれた人がどれだけいたかは定かでないけれど、とにかく2013年度もTERAKKO主導で多くのイベントが開催されることとなった。そして全イベントが終了した今、私のこの投げかけに対しての明確な答えをTERAKKOの誰からも聞



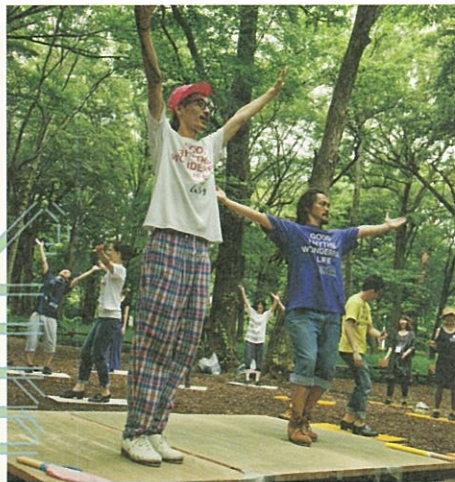
## Civic Pride わたしたちのマチ わたしたちのアート

いたことはないし、自分自身依然モヤモヤしたままだ。ただそれでも、このドキュメントに載っているように、たくさんの「こと」はとにかく起きたわけである。それらを今一度振り返ってみることで、“commit”の先におぼろげに見えてきたものの輪郭ぐらいはなぞることができるかもしれない。そしてその形状にこそ、「アートの持つ可能性」なんていう形骸化した言葉を超越するヒントが隠されている気がしてならないのである。  
(小川 希)

# TERATOTERA 2013



途中下車の旅@三鷹  
私を委ねる場所



途中下車の旅@吉祥寺

TERATOTERA SOUND FES.  
公園のリズム 公園のメロディー

## What's "commit" ?

2013年5月初頭、私は TERAKKO 全員にむけたメールリストで以下の文章を送った。

2013年度、TERATOTERA が掲げるメインコンセプトは“commit”。これは「ゆだねる」「繋がりをもつ」といった意味の言葉です。東日本大震災から2年余りの月日が経ち、私たちは今、自らの存在をどこにゆだね、何と

繋がろうとしているのでしょうか。アートプロジェクトを進める中で見えてきた、地域や共同体への帰属意識(=commit)。なぜ私たちは今、近しい家族や友人関係を超えて、より大きなコミュニティを希求する(=commit)のか？なぜ多くのアーティストが、個々の表現の追求の先に、他者との関係性を築く(=commit)ことを志向しはじめたのか？今年一年の TERATOTERA でのさまざまな企画を通じ、「アート」とは、私たちが“commit”

## はじめに

JR中央線の高円寺・吉祥寺・国分寺という“3つの寺”を繋ぐ周辺地域で展開しているアートプロジェクトTERATOTERA(テラトテラ)。2013年度は「ゆだねる」「繋がりをもつ」といった意味の“commit(コミット)”をメインコンセプトに掲げてさまざまなイベントを企画していきました。

6月に開催した三鷹でのトークショーを皮切りに、9月には吉祥寺の井の頭公園を舞台にしたタップダンスのワークショップと音楽ライブ。10月、11月をまたぎ、高円寺から吉祥寺区間の各駅周辺を会場として、毎年恒例となった大規模展覧会『TERATOTERA祭り』を開催。年をあけて2月には再び三鷹にもどり、駅前周辺で二日限りの野外イベントを企画するなど、今年度もTERATOTERAはノンストップでその歩みを進めてきました。

本プロジェクトの特徴の一つとして、TERAKKO(テラッコ)と呼ばれるボランティアスタッフが、企画から運営まで、開催する全イベントの中心的な役割を担うことが上げられます。世代、性別、職業を越えて今年も多くのTERAKKOが集い、それぞれが想い描いた企画を実現へと結びつけていきました。また、新たな試みとして、運営の心臓部となる事務局機能を学ぶことのできる「TERAの穴」を組織。ここではアートプロジェクト運営のノウハウを身につけるためのさまざまな実践プログラムが組まれることになりました。

TERAKKOたちの奮闘、そしてTERAの穴での実践を重ねる中で、ひとつひとつ実現されていくこととなった2013年度のTERATOTERA。本ドキュメントは、このプロジェクトにまつわる表と裏の両舞台を詳細に追った内容となっています。TERAKKOたちがなにを想い、どう行動し、その結果として街や地域にどんなことが起きていったのか。文字通り表側と裏側から、現在進行形で成長を続けるアートプロジェクト＝TERATOTERAの軌跡をじっくりとご覧いただければと思います。

TERATOTERA チーフディレクター

小川 希

# TERATOTERA 2013 DOCUMENT

もくじ

- 3..... **TERATOTERA 2013 MAP**
  
- 7..... **はじめに** | 小川 希
  
- 8..... **TERATOTERA 2013**  
**What's "commit"?** | 小川 希
  
- 10..... 途中下車の旅@三鷹  
**私を委ねる場所** | 滝本亜魅子
  
- 12..... 途中下車の旅@吉祥寺  
**TERATOTERA SOUND FES. 公園のリズム 公園のメロディー** | 遠山尚江
  
- 14..... **TERATOTERA祭り2013 "commit"**  
TERATOTERA祭り@高円寺  
**商店街サミット** | 脇屋佐起子
  
- 16..... TERATOTERA祭り@西荻窪  
**TEMPO de ART 2013**
  
- 24..... TERATOTERA祭り@阿佐ヶ谷  
**街にひそむ** | 前川順子
  
- 26..... TERATOTERA祭り@荻窪  
**先こぼれ芝天狗 in ルミネ荻窪店** | 森 聡史
  
- 27..... TERATOTERA祭り@吉祥寺  
**映像インスタレーション** | 千葉佐奈子
  
- 28..... **Civic Pride わたしたちのマチ わたしたちのアート** | 高村瑞世



東京文化発信  
プロジェクト



途中下車の旅@吉祥寺

## TERATOTERA SOUND FES.

公園のリズム 公園のメロディー

平成25年9月8日[日]

井の頭恩賜公園内・西園と御殿山の間の林

TAPPERS RIOT(ワークショップ)

オオルタイチ+ウタモ(ライブ)



TERATOTERA祭り2013@吉祥寺

## 映像インスタレーション

平成25年10月11日[金]—11月4日[月・祝]

コビス吉祥寺内 | 吉祥空園sora A館3F屋上

志村信裕



TERATOTERA祭り2013@高円寺

## 商店街サミット

平成25年10月5日[土]

AMP cafe 2F

[パネリスト]

新 雅史(社会学者) 松本 哉(古物商)

セルフ祭り代表者(大阪) 六角橋商店街代表者(横浜/白楽)



TERATOTERA祭り2013@荻窪

## 先こぼれ芝天狗 in ルミネ荻窪店

平成25年10月15日[火]—10月31日[木]

ルミネ荻窪店5階レストランフロア

東方悠平



TERATOTERA祭り2013@阿佐ヶ谷

## 街にひそむ

平成25年11月16日[土] | 阿佐谷けやき公園プール

off-Nibroll



途中下車の旅@三鷹

## 私を委ねる場所

平成25年6月29日[土]

HYM(ハモニカ横丁ミタカ・下図7)

[パネリスト]

藤浩志(十和田市現代美術館副館長・美術家) 松本哉(古物商)

手塚一郎(ビデオ・インフォメーション・センター代表)

## Civic Pride わたしたちのマチ わたしたちのアート

平成26年2月22日[土]・23日[日]

JR三鷹駅北口周辺施設、空店舗など8カ所

中島由夫.....1 | 三鷹駅北口交番横 7 | HYM(ハモニカ横丁ミタカ)

山本篤.....2 | 武蔵野芸術劇場 3 | 三鷹第一アパート

〈つみきのいえ〉.....4 | 三鷹第一アパート

[監督]加藤久仁生 [脚本]平田研也 [音楽]近藤研二 [制作]ROBOT

飯川雄大.....5 | 三鷹北口共同ビル2F

山本高之.....6 | 東海大学望星学塾柔道場

永畑智大.....8 | 特許・日本一へたな歌手 上床敬子®のレストラン喫茶

福永信..... Picnic Area



TERATOTERA祭り2013@西荻窪

## TEMPO de ART 2013

平成25年10月20日[日]—11月17日[日]

JR西荻窪駅周辺13店舗



秋山由希..... A | 旅の本屋のまど

B | 常盤屋牛肉店

池田拓馬..... C | galerie non

岩崎が..... D | VIVACEカイロプラクティック

榎田愛..... E | N302

関川航平..... F | FALL

津田翔平..... G | nombre

苦肉..... H | David & Jonathan

I | ハンサム食堂

福井拓洋..... J | Chill Mie Cafe

K | Fuji Cleaning

山崎悠人..... L | STORE

渡辺俊介..... M | OLUOLU MAHANA

# TERATOTERA 2013



テラトテラ 2013 “コミット”ドキュメント

このブックレットは、TERATOTERAが2013年度に企画制作したイベント・展示の様子を記録したもので、表と裏の2方向からお読みいただける構成になっています。表表紙の側からはイベントのドキュメントが、裏表紙の側からは、スタッフ・裏方からの視点とその素顔をとりあげた「TERATOTERA 2013の作り方」が始まります。

## What's TERATOTERA?

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都と東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団) と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人 Ongoing が協働して、JR中央線高円寺駅—国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。

## What's 「東京アートポイント計画」?

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。

[www.bh-project.jp](http://www.bh-project.jp)

主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、  
一般社団法人 Ongoing